

熱気球体験搭乗 石巻の子も笑顔

信濃町

信濃町野尻の旧野尻湖小で29日、熱気球に体験搭乗するイベントがあった。野尻地区青少年育成会と交流がある宮城県石巻市の小学生ら13人も招待され、地上高くから見ると湖の景色を楽しんだ。

とほほ同じメンバーの子どもたちが、今回再び集まった。水族館に行ったり登山をしたりして、計4泊の日程で交流を楽しんだ。

29日の熱気球に乗るイベントには、子どもたちも大はしゃぎ。石巻市立牡鹿中1年の石森登生君(12)は「野尻湖や山がとてもきれいに見えて楽しかった。春よりも、信濃町の子たちと仲良くなれた」と笑顔を見せた。

信濃町在住で、被災地支援組織「オープンジャパ」の代表を務める吉村誠司さん(46)は、昨年3月の東日本大震災直後、石巻市の大原浜地区を訪れた。流された家々に、がれきの山々。遺体の搬送や炊き出しなどの支援を続けた。

「石巻の子どもをもっと元気にしたい」と今年3月、石巻市立大原小学校などの子どもを信濃町に招待。旧野尻湖小の児童らとともに、湖で釣りをしたりスキーを楽しんだりした。その後連絡を取り合い、前回

信濃町の子どもら数人は今回初めて、石巻の子どもたちの帰宅に同行して石巻市を訪れ、海岸の清掃活動などをした。同町立信濃小中学校6年の吉村萌湧さん(11)は「被災地はまだ復興できていない部分もあると思うので、自分なりにしっかりと手伝いたい」と話した。(軽部理人)



熱気球に乗って空から景色を楽しむ石巻市と信濃町の子どもたち

信濃町

東日本大震災で被災した宮城県石巻市の小中学生13人が29日、上水内郡信濃町の旧野尻湖小学校校庭で熱気球に乗り、空からの景色を楽しんだ。同町の野尻地区青少年育成会が28日から5日間の日程で招いており、熱気球搭乗とも交流した。

同町野尻在住のNPO法人代表吉村誠司さん(46)が同市で復興支援活動を続けている縁で招待した。今春に続き2度目だ。熱気球に乗った子どもたち

被災地・石巻の子ら招き 熱気球 みんなでふわり

は「面白い」「やっぱり怖いかも」などと歓声を上げて大喜び。一般の町民らも訪れ、一緒に乗って野尻湖や街並みを上空から眺めた。

花火大会や野尻湖での湖水浴も体験。石巻市大原小学校5年生の阿部唯さん(10)は「とても楽しみにしていた。地元の子どもたちといっしょに遊びたい」と笑顔。育成会代表の小林大剛さん(43)は「子どもたちが笑っていることがうれしい」と話していた。

子どもたちは斑尾山登山などをして8月1日に帰る。同町の子ども8人も同行し、清掃や植樹活動をする予定だ。